氏名	**遠　藤　　浩**
学位の種類	医　学　博　士
学位授与番号	甲　第　１０５　号
学位授与の日付	昭和38年３月31日
学位授与の要件	医学研究科内科系内科学専攻 （学位規則第５条第１項該当）
学位論文題目	**肝酵素の組織化学的研究**
論文審査委員	教授　小坂淳夫　　教授　妹尾左知丸　　教授　平木　潔

学位論文内容要旨

生検肝組織内の酵素につき組織化学的研究を行ない，肝臓の機能と形態の関係を明らかにしようと試みた。従来肝内酵素の組織化学的研究を人の生検材料について行なった報告は特殊酵素の二，三以外にはない。著者はまず，cryostat を用いてその研究をコハク酸脱水素酵素について試み，その検査方法を詳細に検討した後，小葉内分布では zonal difference を認め，これが肝硬変で消失することを明らかにし，次で増殖した潤管が本酵素活性陽性でしかも肝細胞との移行形を認めることから肝実質の再生に潤管細胞からの分化が関与すること，及びこれが胆管系に起源を有することを証明した。

次にアルカリホスファターゼについて肝組織内分布を検討するとともに黄疸との関係を追究し，本酵素の分布が小葉内では中心帯群と辺縁帯群に分かれること，肝炎例の一部においては小葉毎に活性に著しい差を認める場合があること，同一小葉内でも不均一な分布を示すものがあること，これらが潜在性黄疸の起源と関係をもつことを明らかにし，更に慢性肝炎グ鞘炎型では辺縁帯群及びグ鞘内に活性の強いことを認めこれがグ鞘内要素と深い関係をもつことを実証した。

備考：日本消化機病学会雑誌　Vol. 60　No. 1　1963. 1. 30. 掲載予定

論文審査の結果の要旨

遠藤　浩提出の「肝酵素の組織化学的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

肝臓の病態生理を知る多くの試みのうち，肝臓内酵素の消長を肝生検材料につき，また血中逸脱酵素として把える試みが検討されているが，その酵素の所在乃至分布を明確にして，その病態生理を動的に把握する試みは十分でない。殊に肝炎より肝硬変の段階に把えた試みは殆んどない。そこで著者はコハク酸脱水素酵素，アルカリホスファターゼの2酵素をとり上げ，先ず肝生検材料についての cryostat を用いての凍結から標本までの手技について詳細な検討を行なった後，実施法を確立し，次いで急性肝炎，慢性肝炎，前硬変，肝硬変，脂肪肝等における分布を検討した結果，コハク酸脱水素酵素は主に肝細胞体に，アルカリホスファターゼは静脈洞内皮並びに間質結合織にみられ，いずれも zonal difference を示すが，急性より慢性に移行するにつれ，その規則性にひずみを生ずる。それらは肝循環異常等と関係の深い肝組織のひずみに由ることを証明し，又潤管の増殖は胆管からの発芽形成に基づくもので，肝細胞に分化可能であることを証明した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み，学術上有益であり，著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。